



一般社団法人国際歯科学士会(ICD)日本部会 第51回冬期学会 『現状を俯瞰し、これからの歯科医療の方向性を探る』

日 時： 2021年3月7日(日) 13:00~15:00 オンライン開催

講 演： 『複雑な症例に対する包括的連携治療』
山崎長郎(原宿デンタルオフィス院長/ICDフェロー)

『歯冠修復における基礎研究と臨床へのフィードバック』
宮崎真至(日本大学歯学部教授/ICDフェロー)

<参加者からのご質問と回答>

Q) (宮崎先生へのご質問)

著しく摩耗しているCR修復の再治療の場合や、ブラキサーの方の修復はどうしてもコンポジットレジン修復については躊躇いますが、いかがなものでしょうか。

また、最後方臼歯咬合面には基本的にコンポジットレジン修復は適応するべきではないとは考えていますが、先生はどうお考えでしょうか。

A)

著しい摩耗症例に対するコンポジットレジン修復に関しては、常に議論があるところですが。このような症例では、欠損をコンポジットレジンで填塞して形態を回復させる前に、十分な咬合診査が必要となります。咬耗の原因と、顎機能との関連を十分に考慮する必要があるということです。その実際については「補綴臨床別冊 前歯部ダイレクトボンディング 3D メソッド(下巻)」を参照していただければと思います(Ulf Krueger-Janson著、宮崎真至監訳)。著しい咬耗を伴う複雑な症例に対する咬合診断、治療計画そして臨床の実際についての詳細が記載されております。(日本大学歯学部 宮崎 真至教授)

一般社団法人国際歯科学士会(ICD)日本部会
〒161-8558 東京都新宿区下落合 2-6-22
一世出版(株)内
TEL 03-3952-5155 FAX 03-5982-7751
E-mail secretary@icd-japan.gr.jp